東北地区大会　仙台大会
「復興から創生へ　集え！伊達の地に」～子どもたちの夢を応援するＰＴＡ活動 ～

第６５回東北地区高Ｐ連仙台大会は、仙台七夕を一か月後に控える７月７日（木）・８日（金）の２日間にわたり開催されました。

今回の大会では、東日本大震災と福島原発事故から５年が経過し、７日（木）に研修視察「被災地は、今」オプショナルバスツアーを企画しました。参加者が１８７名を数えたため、二班に分け、それぞれ３時間の行程で実施しました。参加者は、津波を受け廃校となった小学校などを車窓から見学した後、キリンビール（株）仙台工場を訪問し、津波で被害をうけた当時の状況から現在までの取り組み、特に地域支援や学校支援に貢献している様子などを知ることができました。

本大会の前夜祭となる情報交換会には、６２４名が参加しました。奥州仙台おもてなし集団「伊達武将隊」のお出迎えと演舞、仙台の伝統芸能を通じ、地域交流、復興支援に協力し活動を続けている宮城大学すずめ踊りサークル「娘（こ）すずめ」による歓迎の舞、東日本大震災後に仙台市で結成された社会人応援団「青空応援団」による熱きエールが繰り広げられ、大会テーマの韻を踏むかのごとく散りばめられた演出の中、県の垣根を越えた会員同士の交流が持たれました。

明けて８日（金）の本大会。前日の熱気もそのままに、会場の仙台サンプラザホールに１，４３２名が参集しました。“太鼓の力で地域を元気にする応援団”宮城県農業高校和太鼓部の「宮農復興太鼓」がオープニングを飾り、開会行事が行われました。「地方創生の主役となる子どもを守り育てるために～東日本大震災の学校災害を教訓として～」と題した宮城教育大学教授 田端健人先生の基調講演では、あの日あの時、子どもたちのいのちがどのようにして守られ、その後、子どもたちは復興や創生にどのような力を発揮したのかを、数々のフィールドワークで得たデータや実例をもとにご講演いただきました。来年行われる「みやぎ全国高校総文祭２０１７」・「南東北インターハイ２０１７」の生徒 PR をはさみ、午後には、研究協議が行われ、各県代表の方々が発表されました。発表テーマはそれぞれ多彩でしたが、いずれも「子どもたちのために何ができるか？」「子どもたちを理解し応援するためには？」という課題に取り組む真摯な姿勢が伝わってきました。

エンディングは、宮城県仙台南高校合唱部とともに参加者全員が復興ソング「わせねでや」を合唱し、次期開催県である岩手県にバトンを渡しました。

結びにあたり、ご支援ご指導いただいたすべての関係各位並びに会員の皆さまへ、改めて心からの敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。